

文部科学省補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」

2019年度 連携型共同研究 成果報告書

研究課題名	大阪町家・長屋のサイトスペシフィックな利活用に関する研究 国際交流の場としての活用に着目して
研究代表者	小池 志保子（大阪市立大学 生活科学研究科・准教授）
共同研究者	小伊藤 亜希子（大阪市立大学 生活科学研究科・教授） 福田 美穂（大阪市立大学 生活科学研究科・准教授） 碓田 智子（大阪教育大学 教育学部・教授） 西川 章江（大阪教育大学 教育学部・准教授） 綱本 琴（大阪市立大学 生活科学研究科・研究補佐）

研究成果

本研究は、都市居住の遺構である町家の特性を活かした空間体験に着目し、町家の持続的な保存・活用につながるサイトスペシフィックな町家活用モデルを検証することを目的としています。大阪市立大学都市研究プラザ豊崎プラザとして10年以上に渡り活用を続けてきた登録有形文化財の豊崎長屋・主屋において、大幅な改修をせずに住まいとして住み継がれてきた町家の住空間の特性を活かした使い方について調査しました。研究のとりまとめを小池が行い、空間の使われ方の分析を小伊藤と小池、研究協力者の綱本が進め、空間の活用を通じた教育の効果について碓田が、食に特化した教育効果について西川が、国際的な活用の効果について福田が担当しました。

豊崎プラザで実施された13イベントを対象にアンケート調査・360度カメラを利用した観測調査・平面図へのプロット調査を実施し、基礎資料の収集に努めました。また、利用者アンケートから、全てのイベントにおいて豊崎プラザの伝統的な住空間とその利用に対する評価が高いことがわかりました。豊崎プラザの空間が様々な用途の利用に有用であるという考察をもとに、この有用性が何に起因するかを確認するため、データ分析を進め、分析結果から空間要素の一つである襖を配置する実験を行いました。さらに、今年度は日本の伝統的な住空間である町家・長屋を留学生や海外からのビジターとの国際交流の場として活用する事例に着目しました。調査住宅は、建物周囲に塀を回した大正10年築の木造2階建ての住宅で、元土間の台所は床を上げ、現代の設備が整えられています。畳の入った居室側は四間取りで、玄関に式台、座敷には床飾りを設けた大阪の戦前の都市住宅の特徴を継ぐ建物です。本調査の中で、伝統的住空間の特徴である①続き間のある間取り、②周囲の縁側や縁伝いの手洗いがあること、③柱間の自由度が高いことが、イベントごとに有効に働いていることを確認しました。今後は、部屋の大きさの伸縮が容易であることや動線の分離について、さらに調査を

分析を進め、分析結果から空間要素の一つである襖を配置する実験を行いました。さらに、今年度は日本の伝統的な住空間である町家・長屋を留学生や海外からのビジターとの国際交流の場として活用する事例に着目しました。調査住宅は、建物周囲に塀を回した大正10年築の木造2階建ての住宅で、元土間の台所は床を上げ、現代の設備が整えられています。畳の入った居室側は四間取りで、玄関に式台、座敷には床飾りを設けた大阪の戦前の都市住宅の特徴を継ぐ建物です。本調査の中で、伝統的住空間の特徴である①続き間のある間取り、②周囲の縁側や縁伝いの手洗いがあること、③柱間の自由度が高いことが、イベントごとに有効に働いていることを確認しました。今後は、部屋の大きさの伸縮が容易であることや動線の分離について、さらに調査を

準備+WS (分節)

WS+WS (分節)

飲食 (一体)

隣接空間の分節・一体化への転換が容易にできることで、対応できる利活用の内容が広がることを確認

事業内での設営転換

進める予定としています。